

## 『留学生教育』投稿規定

### ■原稿投稿に関する規定

#### 1. 投稿資格

本誌への投稿者は、共著者を含めて本学会会員であることとする。

#### 2. 査読審査

投稿原稿は、編集委員会の査読審査を経て受理する。なお、原稿は採否にかかわらず返却しない。

#### 3. 投稿原稿の種類と内容

論文：過去の知見に対する十分な考察を踏まえたうえで、独創性のある知見が加えられていること。

研究ノート：新規性が高く、将来の研究の基礎となる可能性のある内容であること。

報告：今後の研究または教育活動に資する内容を含む調査報告或いは実践報告であること。

提言：留学生教育の発展に資する意見であること。

書評：留学生教育に関わる著作であること。

#### 4. 原稿の言語及び送付方法

投稿原稿は和文または英文で執筆要領に従って作成し、編集委員長宛に、「投稿申込用紙」、「原稿執筆チェック一覧表」、「原稿」の各1部を、Word ファイル（拡張子は.doc または.docx）及びPDF の両方で電子メールの添付ファイルとして送信する。

#### 5. 原稿の提出

投稿原稿は執筆要領に基づき作成し、完全原稿の形で提出しなければならない。投稿者の母語によらない言語での記述部分（要旨を含む）は、母語話者の校閲を受けたのちに投稿する。

#### 6. 原稿の締め切り

投稿原稿の締切日は毎年4月30日とし、10月30日までに採用が確定した原稿については当年発行号に掲載する。

#### 7. 原稿の掲載と掲載数

投稿者が複数の原稿を投稿した場合、同一号への掲載は、単著1編と共著1編或いは共著2編までとする。ただし、書評はこの制約を受けない。

#### 8. 原稿内容の修正

編集委員会は投稿原稿について修正を求めることがある。修正を求められ、再投稿する場合は、指摘された事項に対応する回答を別に付記する。

## ■執筆要領

### 1. 書式・分量

原稿は Microsoft の Word 文書（A4 用紙に横書）によるものとする。和文の場合、文字サイズ 12 ポイント、40 字×30 行（英文の場合、12 ポイント、30 行）とし、題目・要旨・図表・引用文献などを全て含み、「論文」は 20 ページ以内、「研究ノート」「報告」「提言」は 16 ページ以内、書評は 4 ページ以内とする。英文原稿の制限枚数は和文に準じる。

- \*各ページの左余白に行番号（通し番号）を記載する。ソフト上で設定すれば、自動的に記載される。行番号の記載方法は次の通り。

例 Word 2016, Word 2019 の場合 : 「レイアウト」 → 「行番号」 → 「連続番号」

### 2. 原稿の構成

書評を除き、和文原稿の構成は次のとおりとする。

和文題名・英文題名・和文氏名（和文所属）・英文氏名（英文所属）・和文要旨【400 字以内】・和文キーワード【5 つ以内】・英文要旨【200 語以内】・英文キーワード【5 つ以内】・本文・注・引用文献。

- \*英文原稿の場合は、英文を和文に先行させる。
- \*査読者に伏せるため、投稿時の原稿には氏名・所属を記載しないものも提出する。
- \*採用が決定した段階で、氏名・所属（原則として機関と部署）を次の要領で記載する。

例) 岡山 桃太郎（吉備大学国際センター）

Momotaro OKAYAMA (International Center, Kibi University)

### 3. 「章」「節」「項」等の数字

章は全角の算用数字、節と項は半角の算用数字を用いる。

例) 4. 考察

4.1 方略使用に及ぼすサポート源の影響

4.1.1 方略使用度に及ぼす影響

### 4. 文献引用

本文中および注の文中では、（著者名、刊行年：ページ数）或いは「著者名（発行年）は／によると」のように記載する。

例 1) ……という制度を導入している（杉村，2004：29）。

例 2) 小宮（1995）は、高校の教科書を分析し、……

- \*著者が 2 人の場合 → 佐藤・仁科（1997）すべての箇所で記載する
- \*著者が 3 人以上の場合 → 松見・費・祭（2012）初出時は全員を記載し、2 回目以降は「松見他（2012）」のように省略する。ただし、引用文献欄では省略しないで著者全員の氏名を記載する。
- \*引用文献が複数の場合 → （佐藤，1998；田中・佐藤・渡辺，1996；渡辺，1992，1993a，1993b）引用文献欄の順序と一致するように記載

## 5. 注

本文中の文章の切れ目に両括弧付きの上付き 1/4 の数字を用いて通し番号で示し、本文の後ろにまとめて注記する。

例) 官民一体となった留学生支援である<sup>(1)</sup>。

\* 「文末脚注機能」を使用せず、本文の後ろに 1 行あけて 注 とし、次行から両括弧付きの半角数字(1)で注の文を始める。複数行に渡る場合は 2 行目以降を全角 1 字下げる。

## 6. 引用文献

引用文献の記載は、著者名のアルファベット順とし、文献番号はつけない。各文献は、著者名・刊行年・表題の順とする。雑誌論文の場合、表題の後に雑誌名・巻数・ページを記す。単行本の場合、表題の後に出版社を記す。2 行以上に渡る場合は 2 行目以降を全角 1 字下げる。姓と名の上にスペースを入れてもよい。

### 例 1) 雑誌論文

横田雅弘 (1991) 「留学生と日本人学生の交流教育」『異文化間教育』第 5 号, pp.81-97.

### 例 2) 単行本

稲村 博 (1980) 『日本人の海外不適應』日本放送出版協会

### 例 3) 単行本の一部

久米昭元 (1993) 「コミュニケーション研究の主な領域」橋本満弘・石井 敏 (編著) 『コミュニケーション論入門』桐原書店, pp.25-53.

### 例 4) 翻訳書

ベッカー, R. E.・ハイムバーグ, R. G.・ベラック, A. S. (著), 高山 巖 (監訳) (1990) 『うつ病の対人行動療法』岩崎学術出版

### 例 5) 英語の文献

Miller, G., Boster, F., Roloff, M., & Seibold, D. (1977) Compliance-gaining message strategies: A typology and some findings concerning effects of situational differences. *Communication Monographs*, 44, pp.37-51.

### 例 6) ウェブサイトからの引用資料

日本語教育振興協会 (2006) 「日本語教育機関の概況」

<http://www.nisshinkyō.org/j147.pdf> (2006 年 6 月 17 日閲覧)